

2019. 10

vol. 115

改訂版 vol. 45

# 女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南 5 丁目 14 番 12 号

岐阜県シンクタンク庁舎 4 階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



女性委員長 長瀬 八州余

昨年度は岐阜県建築士会女性委員会の 30 周年の年でした。昨年度と今年度に渡り 30 周年記念事業を行いました。

平成 31 年 4 月に「聴竹居・アサヒビール大山崎山荘美術館」のバス見学、6 月には「祝賀会・見学会」をおこない、「女性委員会のあゆみ」記念 CD を作製しました。

全建女へ参加した時に他県の女性委員会が、工夫をして 30 周年記念事業をおこなっている事を知り、岐阜県も委員同士でいろいろと工夫をして、この 30 周年の事業を行ってきました。

現委員の活動も大事ですが、OB の方がいらしたから、この 30 周年を迎えることができたのだと、資料を調べながら思いました。

これから先の 40 周年に向けてよい橋渡しをしていく事ができるようにしなくてはと、思いを新たにしました。

30 周年記念事業の詳しい内容は「らくだ 44 号」「らくだ 45 号」をご覧ください。



◇ はじめに

◇ 今回の記事

◇ 今後の予定・お知らせ

◇ 研修会「活断層と地震」

日 時：令和元年 5 月 28 日（火）

◇ 女性委員会 30 周年記念事業  
祝賀会並びに見学会

日 時：令和元年 6 月 13 日（木）

◇ 建築士会 東海北陸ブロック会 女性建築士  
協議会 令和元年度 前期定例福井会議

日 時：令和元年 6 月 22 日（土）

◇ 令和元年度

第 29 回全国女性建築士協議会（東京）

日 時：令和元年 7 月 13 日（土）～14 日（日）

◇ 飛騨古川まちあるき見学会

日 時：令和元年 9 月 7 日（土）

◇ 第 62 回建築士会全国大会 「北海道大会」

日 時：令和元年 9 月 21 日（土）

◇ 建築士の日フェスティバル

日 時：令和元年 10 月 5 日（土）

◇ 女性委員会 30 周年記念事業

記念 CD「岐阜県建築士会女性委員会

30 周年記念誌 あゆみ」発行

◇ 編集後記



◆ たくみ女子会

日 時：令和元年 12 月 14 日（土）

# 研修会「活断層と地震」

日 時:令和元年5月28日(火)

13:30~15:00

会 場:中津川市にぎわいプラザ 6-3会議室

(中津川市栄町1-1 電話 0573-66-1111)

参加者:5名(女性委員のみ)

講 師:中津川市鉱物博物館 学芸委員

大林達生氏

テーマ:「活断層と地震」



(↑研修会の様子)

## 研修会に参加して

報告者:長瀬 八州余

中津川市の出前講座から、中津川市鉱物博物館の大林氏に講師をお願いしました。いつもは中津川市内の内容で話をされているのですが、今回はもう少し全体的な内容にいただきました。

最初に「活断層とは」というところから、話は始まりました。

活断層は地図等で現すと線になるが、実際は面で動き、そして断層面が動くことで、地震が発生するのであって、地震が起きると断層がずれるのではない。

断層の動き方は縦方向と横方向の2通りあり、縦方向は引っ張り(正断層)と圧縮(逆断層)の2種類があり、日本では逆断層が圧倒的に多いそうです。縦方向と横方向が別々にきれいに動くことはなく複合的に動きます。

マグニチュードの数字が二つ上がると 1000 倍

エネルギーは大きくなり、数字が一つ上がると $\sqrt{1000}$ なので約 30 倍です。小さな地震が沢山発生しても、大きな地震に匹敵するだけのエネルギーを消費することは難しいと言うことです。

中津川市を通っている「阿寺断層帯」は日本で最初に調査が始まった断層で、いろいろなデータが多く蓄積されて研究されています。

日本にはわかっているだけで約 2,000 の活断層があり、その中で主要な断層帯・断層系は 150 です。A 活断層と言われるランクで千年単位で 1m 以上動く断層です。単位が千年です、人間の一生は誤差の範囲内ですとの事でした。

岐阜大学地震工学研究室 地震防災情報では被害想定調査をしており、郵便番号を入力すると、南海トラフの巨大地震での、想定震度・液状化危険度検索をすることができます。自分の住んでいる場所がどうなっているのか一度調べてみることも必要かと思います。

私は、震源が深い地震の方がプレートの影響で起こる地震だから、浅いものより怖いという認識でしたが、今回の話を聞いて、震源が浅くて大きい地震の方が地表に対する影響が大きいということがわかり、認識を新たにしました。

地震をなくすことはできないので、むやみに恐れることなく、地震が発生するメカニズムを理解して、防災・減災の対策を立て、地震に対処することが必要ではないでしょうかということでした。

今回は受講生が5名と少なく、講師の大林さんと近くでお話を聞くことができ、話の途中で疑問に思ったことを話す事ができ、それに対しての返答もすぐに聞く事ができました。先生としては、話の進め方があっちこっちして、進めにくかったかもしれませんが、聞いている方は、わかりやすく、良かったです。人数が少なくて、困ったなあと思っていたのですが、これはこれで良かったです。

講師の大林さんにはありがとうございました。





## 女性委員会30周年記念事業

### 祝賀会並びに見学会

日 時: 令和元年6月13日(木)

見学会 10:50 集合～12:30

祝賀会 12:30～14:30

場 所: 迎賓館サクラヒルズ川上別荘

(住所: 各務原市鵜沼宝積寺町3丁目 82-2

電話: 058-384-0700)

参加者 見学会 16名

祝賀会 14名



(↑ 祝賀会での集合写真)

## 旧川上家別邸『萬松園』を見学して

報告者: 森崎 麻充

今回の見学会は、日本初の女優「川上貞奴」が晩年に建てた別荘、『萬松園』です。

見学前には、トラスト岐阜 加藤達雄様から、川上貞奴が歩んだ人生等をお話し頂き、お蔭で、貞奴のイメージを抱いて、見学に臨みました。

外観は、むくりの屋根や、書院風の玄関が目に入ります。驚いたのは、屋根瓦が鋳物製であったことです。実物を触らせてもらいましたが、とても軽いものでした。

仏間は、天井に天女の彩色画があり、壁下には、菩提樹へ向かう無数の蟻の行列が、金泥で描かれており、仏教色が豊かでした。一方、サンルームは、木曽川を望むように、菱形の棧が組まれたガラスの扉に、金茶色のタイルが貼られ、モダンな空間です。

『萬松園』は26部屋が連なる大邸宅ですが、一部屋毎に様々な意匠を凝らしており、合わせて、最高の建築技術も目にすることが出来ます。

全てに贅を極めた大邸宅は、大変見応えがありました。また、照明スイッチ盤を、壁飾りを重ねて隠す等、細部に至るまで貞奴の心遣いを感じる、素晴らしい建築物でした。

本見学会を企画いただきました皆様方に、心より感謝申し上げます。



(↑ 萬松館庭にて集合写真)



(↑ 加藤氏より説明を受ける)



(↑ 鋳鉄製の瓦を見学)



(↑ 建物内部の見学の様子)

## 祝賀会

報告者：石原 靖子

萬松園見学のあとは、隣接する「迎賓館サクラヒルズ川上別荘」で 30 周年祝賀会。

横井会長のご祝辞と狭場副会長の乾杯のご発声で素敵なランチタイムがスタート。

ご多忙の中ご臨席賜り、誠にありがとうございます。

新緑が美しい木曽川の景色を背景に、コース料理を堪能しながら、同業者同士、女性同士ということで、会話も盛り上がり、束の間のリラックスタイムとなりました。

日中ということで、ノンアルコールでのお 식사가少々物足りなかったですが(笑)、次回はぜひキンキンに冷えたシャンパンでお食事を楽しみたいと

思います。

さて。

歴代の委員長からのご挨拶の中に、「大変だったけど、やらないほうがよかった、という思いはない。できない経験ができてよかったと思う」という言葉が印象的でした。

また、30 周年を記念して冊子がまとめられ、これまでの女性委員会の歩みを知ることもできました。女性委員会のいいところは、一般では見学しにくい建物を見学できることや、

ちょっと素敵なお店で食事を楽しめるところのようです(笑) お店選びにハズレがなく、プライベートでも活用できそうです♪

もちろん委員会活動を通じて、見聞を深めながら、地域に貢献していくことも建築士会女性委員会の役割であります。

食事会のめに、40 周年を盛大に迎えようと誓い合い記念写真を撮りお開きとなりました。



(↑ 横井会長の挨拶の様子)



(↑ 女性委員会担当理事 狭場氏挨拶の様子)



## 建築士会 東海北陸ブロック会

### 女性建築士協議会 令和元年度

#### 前期定例福井会議

日 時: 令和元年6月22日(土)

会 場: 福井県国際交流会館 会議室3

(住 所: 福井市宝永3丁目1-1 電話: 0776-28-8800)

参加者: 2名



(↑ 会館入り口の案内板前にて集合写真)

#### ブロック会前期定例(福井)会議に参加して

報告者: 長瀬 八州余

6月22日(土)の朝6時半に、中津川を桂川さんのご主人さんの運転する車で出発しました。

ほとんど一般道でしたが、一度も通ったことのない道で、楽しかったです。

下呂に出てR41号を通り、途中からR156号で和良を通過郡上へ出ますが、すごいカーブの山道を下ります。ナビの地図が尋常でない表示をしています。白鳥からR158号を通り九頭竜湖を眺めながら、道の駅「九頭竜」に寄ります。恐竜のオブジェが展示されており、時間になると動きます。丁度時間に合ったので、見る事ができました。小さいお子さんは、ビックリして泣いていました。福井県内では中部縦貫自動車道の工事を至るところでおこなっていました。

10時半頃福井駅に着きました。駅周辺を散策して、駅前の恐竜のオブジェを見ます。駅前の広場では「メロン祭り」をしていました。種類の異なる3切れを500円で味見することができました。美味しかったです。

駅中のビルで昼食をいただいて、会議の会場へ向かいます。

会議のお菓子は、後の見学会にちなんだ名前のお菓子でした。

御素麺屋「養浩館 別邸の月」「林檎ばい」懐紙として越前和紙を敷いてくださいました。



(↑ 和紙とお菓子とお茶)

会議は13:30~16:00の予定でしたが、35分ほど超過してしまいました。

会議は会議次第に則って進みます。

審議事項・協議事項については、

- ・運営委員長は基本青年建築士協議会に出席について
  - ・次回の後期(愛知)会議でのワークショップについて
  - ・令和4年度の全建女の担当県について
- 上記3点が大きな話し合いの内容になっています。オプションで「養浩館庭園」を見学しました。電車の時間の関係で、途中で帰った方もいたので、集合写真は全員ではありません。岐阜県は車での参加だったので、時間を気にすることもなく、じっくり見学をすることができました。桂川さんのご主人さんありがとうございました。福井県の皆様にはいろいろとお世話いただきありがとうございました。



(↑受付の様子)



(↑会議の様子)

## 見学会『名勝 養浩館 庭園』

報告者：桂川 麻里

ブロック会議の後、希望者のみ「魅力ある和の空間ガイドブック」にも掲載されている養浩館の見学に行きました。

福井空襲の時にも残っていた庭園の池や石組などは国の名勝に指定されています。

建物は1600年代(江戸時代初期)に建てられ、昭和初期まで残されており高い評価を得ていたようで、調査をされたり、写真でも残されていたそうです。その為、空襲により焼失してしまっても、資料を元に現在の建物を平成5年に完成させたそうです。湯殿は柿葺き、茶室は茅葺き屋根の数寄屋造りでした。

元々は福井城の別邸として建てられ、「御泉水屋敷」と呼ばれていましたが、明治維新の時に政府

所有となり迎賓館等の機能を果たしていたため、孟子の言葉を由来に「養浩館」となったそうです。普段は建物はガイドブックと共にゆっくり見回りますが、名勝庭園は見に行っても見て回るだけでしたが、今回はガイドさんの説明を聞きながら一緒にまわりました。

塀等の土台の下石や飛び石等に使われている石は笏谷石と言い福井特有のもので、とてもきれいな緑色をしていました。他にも飛び石の種類にも意味があって並べられているという面白い話もして頂きました。建築士会の見学会ということで、いつもはよくたぶん何々の木で済んでしまう建物の材の種類もその都度教えて頂き勉強になりました。

今回は「魅力ある和の空間ガイドブック」に掲載されている建物で、他に愛知県の建物も見学に行ったことがありますか、どれも大変勉強になる建物ばかりだと印象が強いです。

まずは、東海北陸ブロック内の建物を制覇したいと思いました。



(↑集合写真)



(↑庭園見学の様子)



令和元年度

## 第29回全国女性建築士協議会（東京）

日時：令和元年7月13日（土）～14日（日）  
会場：全国女性委員長（部会長）会議・・・リロ  
会議室「田町」

（東京都港区芝 5-26-24）

全国女性建築士連絡協議会・・・日本  
建築学会建築会館ホール

（東京都港区芝 5-26-20）

参加者：4名



（↑閉会式後会場にて 集合写真）

令和元年度

## 第29回全国女性建築士連絡協議会

（東京）に参加して

報告者：長瀬 八州余

今回の全建女は二日目の分科会で岐阜県が G 分科会「高齢社会と住まい」のコメンテーターを務めることになりました。

女性委員会としては事前に準備委員会をつくり、福祉まちづくり部会と連携して準備を進めてきました。

岐阜県からは4名の参加で、7月13日は現地集合で集まりました。  
今回の全体の参加者は 360 名余ということでした。

一日目 7月13日（土）

11:00～12:30 全国女性委員長（部会長）会議

12:45～13:30 受付

13:30～13:50 開会式

13:55～14:30 活動報告

（岩手県建築士会、秋田県建築士会）

14:30～15:30 被災地報告

（北海道建築士会、福島県建築士会、  
岡山県建築士会）

休憩

15:45～16:30 基調講演

「和の伝統技術の継承と創造

～新たなプロの育て方～」

講師：有限会社原田左官工業所

代表取締役 原田宗亮氏

16:30～17:45 トークセッション

ゲスト：

有限会社原田左官工業所 代表取締役 原田宗亮氏

Marumo 工房 金沢萌氏

コーディネーター：連合会女性

副委員長 石貫方子氏

17:30～18:30 交流会

二日目 7月14日（日）

8:50～10:40 分科会

A分科会「被災地支援の取組み」……………

（参加 16 名）

B分科会「環境共生住宅心地よい暖かさを求めて」……………（参加 32 名）

C分科会「歴史的建造物と建物再生」……………

（参加 34 名）

D分科会「会員拡大へ向けた取組み」……………

（参加 22 名）

E分科会「木造塾」……………

（参加 24 名）

F分科会「子供と住環境」……………

（参加 27 名）

**G分科会「高齢社会と住まい」……………**

**（参加 41 名）**

H分科会「クリークの再生とまちづくり」……………

（参加 11 名）

移動

11:00～11:45 全体会

分科会報告

全体総評

令和元年度第 29 回全国女性建築士連絡協議会アピール

第 62 回全国大会北海道大会参加のご案内

令和 2 年度第 30 回全国女性建築士連絡協議会（福岡）参加ご案内

閉会の辞

午後から岡田さんと私は愛知県の女性委員会に混ざってもらい、東京湾クルーズに参加しました。雨降りだったためでしょうか、貸し切り状態でした。日の出桟橋で愛知県さんとは別れて、船で浅草に向かい、隈研吾設計の「浅草文化観光センター」を見学して、仲見世商店街をぶらぶらして帰路につきました。

コメンテーターの高野さん、伊藤さんはお疲れ様でした。

愛知県さんにはお世話になり、ありがとうございました。

雨降りの二日間でしたが、女性ががんばっている事を肌で感じる事ができた二日間でした。



（↑開会式の様子）



（↑九州ブロックの女性委員による、令和 2 年度第 30 回全国女性建築士連絡協議会（福岡）参加ご案内の様子）

全国女性委員長（部会長）会議に参加して

報告者：長瀬 八州余

7月13日（土）の11時よりリロ会議室田町 5階会議室にて全国女性委員長（部会長）会議に出席してきました。

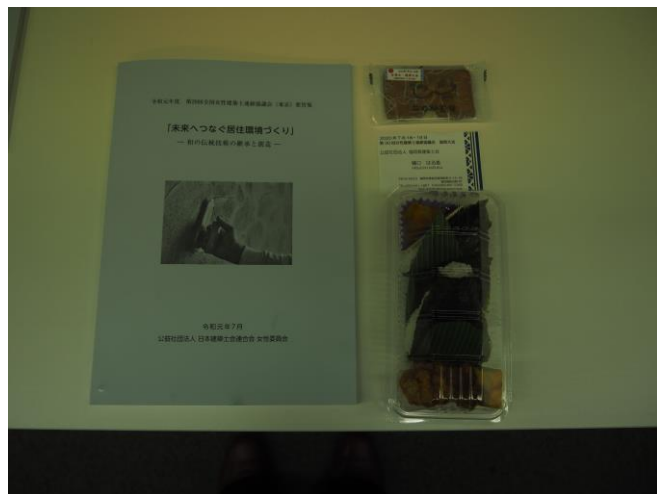
早めに行って、お弁当を食べようと思ったのですが、会議直前しかお弁当が配られず、会議をしながら食べることになりました。

席には来年の全建女の福岡県委員長の名刺とお菓子が置いてありました。

各県の活動報告が1分で成されますが、46都道府県の発表なので仕方が無いと思いますが、すごい早口でしゃべることになりました。



（↑会場の様子）



（↑お弁当 おにぎり2ヶと唐揚げ1ヶ）

## 岩手県建築士会、秋田県建築士会の 活動報告について

報告者：岡田 利里

岩手県女性委員会からの活動報告は、盛岡市鉾屋（なだや）町の町屋再生の取り組みについてでした。鉾屋町は、江戸から明治にかけて北上川の舟運時代に栄えた町ですが、鉄道の開通によって舟運の時代が終わり、盛岡駅に向かって町の中心が移動していったことで活気が薄れてきた町です。その歴史的町並みを保存するため、

- ・建築の専門家や住民団体による「盛岡まちなみ塾」の設立。

- ・国土交通省の支援調査事業において、市民と行政が一体となり「盛岡市町並保存活動計画」の報告書を作成。

- ・「盛岡市町並み保存活用基本計画」と「歴史的町並み整備事業補助金交付要綱」が制定され、建物の修繕にかかる費用の約半分の補助を行う事業を開始。といった、官民一体となった活動をしている事が印象的でした。

また、被災沿岸地域に関わる活動として、陸前高田市や大船渡市の視察なども行っているそうです。被災から8年以上たった今でも、震災による被害は終わってはいないのだと痛感しました。

秋田県女性委員会からの活動報告は、秋田県建築士会におけるヘリテージマネジャーの取り組みの一つである、白井晟一の建築物の調査・保存・活用についてでした。



(↑ 岩手県の活動報告)

秋田県湯沢市には、戦後日本を代表する建築家の一人である白井晟一が手掛けた6作品が残されているが、市民の間にはそれほど認知されていないということで、

- ・「白井晟一に関する建築物調査等業務」を湯沢市より受注し、プロジェクトチームを作り、6作品の調査、研究を行う。

- ・市民が、建築家・白井晟一に、そして白井建築と地域との関連に関心を持てるような紹介・展示パネルを作成。

- ・白井作品の一つを会場として講演会・建物見学会を行い、予想を上回る市民の参加があった。これらの活動の後、2作品が国登録有形文化財に登録されたということです。

このように、今はその役割を終えた建物も、「再生」によって地域を支える拠点となることを実証したヘリテージマネジャーの取り組みの紹介でした。

しかし、その「再生」に欠かせない卓越した技術と知識を持つ職人が、少なくなっている今、人材育成と次世代への技術継承に取り組むことこそが、私たち建築士のすべきことではないのかと思います。という今後への目標を提示されました。



(↑ 秋田県の活動報告)

## 被災地報告

報告者：伊藤 麻子

毎年この場での被災地報告は新たな災害地が加わっており、改めて自然災害の頻発化、甚大化を実感します。

・北海道胆振東部地震報告及び取り組みについて  
最大震度を記録した厚真町では土砂崩れで多くの被害が出たのは記憶に新しいのですが、最近地震が多発していたことや直前に台風に見舞われたことも被害の大きさに繋がったとみられていました。被害の中でも停電によるブラックアウトは何よりショッキングな事でした。他にもインフラの復旧に時間がかかったこと、仮設住宅は寒冷地仕様の断熱や除雪スペースの確保の工夫がされている事についても報告がありました。

### ・福島 帰宅困難区域の現状

県内の避難者は事故当時16万4千人ほどが今年3月では4万3千人と、いまなお非難を続ける人が数多くいます。

富岡町：一部を除き避難指示が解除され、事故後初めて桜並木の名所で桜祭りが開催され

一日限りのバス運行を実現し町民が楽しまれた。

大熊町：今年4月に避難指示が解除。新しい役場が建設され、元町民の4%が住民登録した。

双葉町：県内でも唯一、全町避難がいまだに続く。東京電力の事故の資料館では入口正面に「お詫び」が掲げられ、胸をうたれたとのこと。

先日7月6日には福島県女性員会の第30回記念大会「今を生きる～復興から福幸へ想いを紡ぐ～」としてが開催されました。

### ・西日本豪雨災害からのメッセージ ～WAGAKOTOとして～

昨年6月に起こった西日本豪雨について、ハザードマップではすでに予想されていた降水量であったのに、なかなか現実的に受け止められていなかった。被災した住宅についての

相談が多くあり、対応に追われたが役割を果たした実感があつた。これからは建築士が地域のリーダーとなり「ボトムアップの防災」を広めていくといった報告がありました。



(↑北海道の報告の様子)



(↑福島県の報告の様子)



(↑岡山県の報告の様子)

## 基調講演とトークセッション

報告者：伊藤 麻子

「和の伝統技術の継承と創造 ～新たなプロの育て方～」

有限会社原田左官工業所 代表取締役 原田宗亮  
(はらだ むねあき)

女性の活躍が云われ始めて久しく、ITを始め女性の働く場が広がりつつありますが、左官という昔ながらの力仕事、水仕事の世界でもきらきら輝く若手、女性たちのお話が聞け、実質的にためになる、とても興味深いお話でした。

この事業所は女性の職人が10名ほど在籍、ママさん職人も子育てしながら就労されているとのこと。ポジティブで明快な経営と人材育成が印象的でした。

若手育成ポイントは3点

モデリング訓練

社内で一番ベテラン職人のビデオを見て、忠実にまねをする。

年明け披露会

入社して最初の4年間は見習いの立場だが、それを過ぎたら当事者社員の家族や社員全員で盛大に祝う。フォトブックも贈られる。

ブラザーシスター制度

1年先輩が後輩の面倒を見る。先輩少数 対 後輩多数 だと話しやすく、意見も多く出る。経費は会社からでるが、写真で報告する。

と、ベンチャー企業並みに楽しそうな企画のようなカリキュラムです。

さらに「仕事旅行社」という職業体験付のツアーパックの受け入れもされて、これには年間60人程度が参加されるそうです。1日目は壁塗り体験、2日目は工事現場見学。2日目の方が人気があるそうで意外でした。

続いて、トークセッション

ゲスト 元社員 女性左官職人 金澤 萌  
ものづくり大学で大工を志したが、壁塗りが楽しくなり左官となった。独立後母となり、自身で左官の仕事をする傍らものづくり大学で非常勤講師を務めているお話をされました。

あらゆる面でいまどきのやり方で、実践するとなると昔からの世界では勇気が必要ですね。

ただ効果は目に見えてあることでしょう。これがすべてではありませんが、これも視野に入れて進めていくべきことだと感じました。



(↑ 基調講演の様子)



(↑ トークセッションの様子)

## 分科会紹介

A分科会「被災地支援の取組み」・・・・・・・・・・  
(参加16名)

B分科会「環境共生住宅心地よい暖かさを求めて」・・・(参加32名)

C分科会「歴史的建造物と建物再生」・・・・・・・・・・  
(参加34名)

D分科会「会員拡大へ向けた取組み」・・・・・・・・・・

(参加 22 名)  
E 分科会「木造塾」・・・・・・・・・・・・・・・・  
(参加 24 名)  
F 分科会「子供と住環境」・・・・・・・・・・・・  
(参加 27 名)  
G 分科会「高齢社会と住まい」・・・・・・・・・・  
(参加 41 名) コメンテーター岐阜県  
H 分科会「クリークの再生とまちづくり」・・・・・・  
(参加 11 名)

## E 分科会「木造塾」に参加して

報告者：岡田 利里

建築士会に入会して約 1 年の私は、岐阜県の木造塾にもまだ参加したことがないのですが、普段の業務に活かせるような木造に関する知識を得られたらと思い、この分科会の参加を希望しました。今回、木造塾の分科会には 25 名ほどが参加しました。

前半は、香川県建築士会のコメンテーターによる「かがわ木造塾」の活動紹介がありました。

「かがわ木造塾」は、2010 年に発足以来、毎年 5 ～6 回の講座を実施してきました。例として、県有林での森林体験（ヒノキの間伐材への植菌、なめこの収穫、キノコ汁の試食）や、県外一泊してのフィールドワーク、平日夜に県内の建築家や職人さんに聞く事例勉強会など、多様な取り組みの紹介をされました。それらの講座において、

- ・座学の講座では、DVD 撮影をし、アーカイブとして保存し、講座欠席者や希望者に貸し出す。
- ・講座は全て 1 時間 1 単位の CPD 単位が取れる。
- ・アンケートを実施し、講師や講座の要望を聞き、講座を決める。

などの工夫をされていました。特に、講師として招いた人のところに、次の年には見学会に何うようにして、講師とのつながりを大切にして講座を続ける工夫をしているということが印象的でした。後半は、4 つのグループに分かれて意見交換を行いました。同じグループの中には、ご夫婦で設計事務所を運営されていて、木造の知識を深めたいという人、工務店で設計・監理をされていて、ツ

ーバイフォーから在来工法に切り替えたため、在来木造に関する知識を得たいという人、内装工事の現場監理をしている人などがおり、建築士として携わることが多い木造建築を、色々な側面から学びたいと思っている人が多い印象でした。

意見交換のテーマは、「地方や少人数でも持続可能な勉強会の進め方」についてで、

- ・木造塾を継続していくためには、予算、事務局の運営などの工夫が必要である。

- ・家族で参加できるような講座、次世代を担う子供たちへの森林教育などの講座を行う。

等の意見がありましたが、グループ内では実際に木造塾を計画する側の立場の人はいませんでしたので、あまり具体的な話には踏み込めませんでした。

今回、初めて参加した全国女性建築士連絡協議会でしたが、女性建築士の方たちが、普段の業務以外にも様々な活動をされていることが分かり、刺激を受けることができました。



(↑ 会場の様子)

## G 分科会「高齢社会と住まい」

報告者：高野 栄子

今年度岐阜県建築士会女性委員会は分科会でコメンテーターを務めることになりました。全建女は何度か参加しましたが、まさか自分がコメンテーターとして発表することになるかとは思っていませんでした。建築士会に所属し女性委員会の活動を始めて 10 年以上になりますが初めてのこと

で、お引き受けしたことはいいのですが上手くいくのかどうか正直言ってとても不安でした。

3月の始めに連合会の方から下川さんにご連絡があり、昨年度のまちづくり賞の受賞を知り全建女の発表の依頼がありました。お声かけて頂いたからには「福まち建築士」のPRも兼ねて発表しようということになり、一緒に全建女に参加される福まち部会の伊藤さんも巻き込み準備にかかりました。女性委員会からは長瀬さんと岡田さんにもご協力頂き、福まち部会のメンバーとの共同で準備を進めました。

5月、6月と皆さんお忙しい中、日曜日の午後集まり、発表原稿の内容確認、パペットの動画制作をしました。はじめは全建女の会場で実際にパペットを上演する予定でしたが、何度か話し合いを重ね、とても大変だということで動画を作成し、見て頂くことになりました。限られた時間で皆さん一生懸命取り組みなんとか7月初めには動画が完成し、先行してその動画はYouTubeにもUPしました。

そして迎えた本番、早くから会場入りし準備を進める中、用意して頂いたパソコンに少々苦戦しました。パワーポイントで事業の内容を説明し、動画もなんとか再生できました。福まち部会の成り立ちからその仕組み、各研修の内容とこれまでの実例を紹介しました。

そのあとの意見交換会では、発表の内容や動画についての質疑は意外に少なかったです。参加者の皆さんが各地で高齢者と住まいに取り組む活動の内容や、現実の業務の実態など活発な意見が出ました。

いままで岐阜県内での士会活動に参加していましたが、あらためて建築士会は岐阜だけではないこと、日本中で同じような考えで活動している方がみえるということなどわかりました。岐阜だけでなく広い視野で活動を考えるいい機会になりました。分科会に参加された方の貴重なご意見を参考に今後の活動に役立てて行きたいと思います。最後に一緒に参加してお手伝い頂いた長瀬さん、岡田さんありがとうございました。

伊藤さんご苦労様でした。福まち部会の皆様には大変お世話になりました。



(↑会場の様子)



(↑コメンテーターの二人)



(↑会場へ持っていたパペット2体を皆さんに回した。)



(↑使用したパペットの一部紹介)



## 飛騨古川まちあるき見学会

日 時: 令和元年9月7日(土)

11:00~12:30

会 場: 岐阜県飛騨市古川町

参加者: 5名



(↑ JR 飛騨古川駅構内にて)

### 「古川町まちなみ見学会」の報告

報告者: 井之口 洋子

9月7日は町歩きには多少暑いかなと思われましたがとても天候に恵まれました。

古川駅で参加者の皆さんとガイドさんと待ち合わせてそのまま見学に出発しました。

ガイドは森下さんです。最初に古川の歴史をざっくり教えてくださいました。

江戸時代に高山が天領と呼ばれる直轄領になり、その副都心となったのが古川でした。ですので、古川は天領時代に栄えた町なのです。

水が豊富で、大垣に次いで大きなお堀工事が行われました。

今も町中にある道路は昔の堀の巾になっているところが随所に残っています。

最初に古川といえば「三寺まいり」という伝統行事がありますが、そのお寺の1つ円光寺へ。こ

らはとっても立派な山門のあるお寺でした。

こちらの門は古川にあった増島城の山門を移築されたそうです。



(↑ 円光寺にて説明を受ける)

次は飛騨の匠文化館へ

こちらの建物は釘を使わずに飛騨の木材を使って地元の大工さんたち30人によって建てられた建物です。



(↑ 匠文化館にて)

高山は古い建物を残した町並みです(伝建地区)が古川の建物は古い建物をそのまま残すのではなく、高度経済成長期に伝統工法で作っている建物であることです。

そして特徴的なのが屋根の底を支える腕木に装飾を施して「雲形肘木」(くもがたひじき)と呼ばれるものです。通称: 雲と言っています。

昭和29年頃から一般住宅につけるようになり、建てた大工さんがこの装飾を考え、彫るので今では200種類を越えると言われています。

こちらでは様々な雲形肘木が一度に見られます。



(↑いろいろは種類の雲形肘木)

次は古川にもある屋台蔵の1つ麒麟台へ。

町内の公民館以外に屋台の為だけに麒麟会館がありました。屋台蔵の隣です。

こちらはお祭りの時に拠点となるだけでなく、屋台にまつわる諸々の道具等の収納機能があり、使い方的に屋台蔵と直接繋がっているかと思いましたが屋台蔵とは完全に縁が切れているのだそうです。防火上、防犯上の措置のようでした。



(今回は丁度お祭りの準備の為に麒麟会館が開いており、中を見学することができました。)

お祭り前にはお囃子、からくりの練習をこちらで行っているそうです。

屋台蔵は置き屋根になっており、正面は大きな観音扉になっています。扉には屋台の紋がついてお

り、これだけ大きな観音扉は高度な技術が必要なんだそうです。

屋台の保存には市、県、国からと補助金が多く使われているそうですが、賄いきれない部分もあり市民の寄付にも頼っているそうです。



(↑麒麟台の屋台蔵)

祭りになると提灯の竿を各家庭の前に立てて、提灯を灯します。すたれていく町も多いようですが、古川では町の方々は苦にせず続いているそうです。

次は古川の歴史をさらに詳しく聞きながら町並みを散策です。



(町歩き散策の様子)

江戸時代に飛騨地方が栄えたので、明治時代は高山市の人口は日本の中で人口が多く、古川もベスト5に入るほどの大きさであったそうです。

文化交流も盛んだったので今ではユネスコ文化遺産が2つもあるのが誇りとなっています。(高山祭と古川祭)

渡辺酒造、蒲酒造と三嶋ろうそくの前を散策。  
蒲酒造ではお酒の試飲もできます。三嶋ろうそくは朝ドラ「さくら」の舞台にもなったお店です。伝統的な和ろうそくを作られています。



(↑三嶋ろうそく店舗外観)

三寺まいりの2番目のお寺、本光寺に向かいます。  
その途中に住民運動が起こった話を伺いました。  
道路に子供の通学の為に歩道橋が架かっていたのですが、それが町の景観を損ねているのではないかと自主的に話し合っ地下道を作り、歩道橋を撤去したそうです。  
町並みに対しての意識の高さを感じました。

本光寺は飛騨地方では一番大きなお寺です。とても立派な山門で彫刻は富山県井波市で彫られたそうです。  
飛騨の匠が奈良の都の建造物造営に携わったことから京、江戸文化の融合があり文化が栄えたのではないかと思われるとの説明がありました。



(↑本光寺にて)

また、こちらは映画のあゝ野麦峠の舞台にもなりました。映画では辛い面がクローアップされていましたが、森下さんの聞いた話では現金収入があり明るい話の方が多かったそうです。



(あゝ野麦峠の石碑。説明を受けないと見過ごしてしまいます。)

次は登録有形文化財になっているハツ三館です。  
こちらまあゝ野麦峠ととても深い関わりのある建物です。  
大正時代には就職の斡旋などを一手に引き受けていて、地方から来た若者はこちらで集合し就職先へ向かったそうです。  
少しだけ中を見せて頂きました。



(↑ハツ三館外観)

そのまま荒城川沿いを歩いて三寺まいりの最後のお寺、真宗寺に向かいました。  
こちらのお寺はとても背の高い建物で、近くの赤い今宮橋とのコントラストが美しいお寺でした。



(↑見学の様子)



(↑真宗寺にて)

その後は昼食会場の「おはこ」で町歩きは終了しました。

「おはこ」では薬草ランチを食べ、薬草の効能を説明してもらって美味しく頂きました。



(↑薬草ランチプレート)



## 第62回建築士会全国大会

### 「北海道大会」

日 時: 令和元年9月21日(土)

会 場: 函館アリーナ

(北海道函館市湯川町 1-32-2)

テーマ「Re+明日のまちに輝きをー」

参加者: 2名



(↑会場入り口にて集合写真)



(↑会場全景)



(↑お弁当)

9月21日(土)

午前 10:00～12:00

1、青年委員会セッション

2、女性委員会セッション

3、景観・街中(空き家)まちづくりセッション

4、福祉まちづくりセッション

5、防災まちづくりセッション

6、環境部会セッション

7、情報部会セッション

8、歴史まちづくりセッション

(8あるセッションの内3と4に参加しました。)

午後 12:00～15:00 昼食、会場散策

15:00～17:00 大会式典

17:30～19:15 大交流会

20:00～22:00 函館夜景バスツアー

## ＊セッション報告＊

### ●景観・街中(空き家)まちづくり部会

「空き家等の適正管理と利用活用による景観の向上」

報告者：小林 教子

会場は函館アリーナ武道館内で行われた。最初に景観まちづくり部会長の挨拶があり、現状等の説明に続いて実践の報告が3件あった。

北海道後志支部の報告は空き家バンクについての活動報告で、後志総合振興局から空き家流通の構築と試行を委託され、建築士会、宅建業界、行

政との連携により設立された。協議会とは別に「BANK 事業者協力会」も設置した。運営資金については会員の会費とほか収益の3%をバンク運営費としているなど、維持するための費用の捻出には苦勞をしている。

奈良県橿原支部は、今井町伝建地区の中の空き家を、奈良県立大学医学部が今井町の高齢化を研究対象として、「地域住民のための健康行事を行う場所」「外国人研修医・研究者用のゲストハウス」とし改修した事例を紹介した。改修費5200万円のうち1200万円は文化庁からの補助金である。研究はMBT構想(医学を基礎とするまちづくり)である。

大分県は、建築士個人の活動が地域の人々を巻き込んで広がっていている報告であった。2例とも私費を投じて空き家を購入、外国人を対象に素泊まりできる民泊運営した例と、

建築士で市職員の2人が自宅用に空き家を購入し、参加型リノベーションから地域を巻き込んで、「空き家のみの市」や「お掃除ワークショップ」「空き家BAR」などで町に新たなコミュニティが生まれた事例。

空き家BANKなどシステムを構築しても運営資金や連携にかなり知恵を絞る必要がある。

今回、個人の活動で、自分のかかわれるエリアを小さくすることもありと(200m四方)考えさせられる事例であった。しかし、資金は必要である。



(↑ 会場の様子)



(↑ 会場の様子)

## ●福祉まちづくりセッション

『全国の観光バリアフリーと建築士について』  
ーハード整備とソフト対応のわかる建築士の育成バ  
リアフリーの観光地、地域づくりにおける建築士の役  
割ー

報告者：桂川 麻里

いつもはセッションに参加するだけですが、今年  
は福祉まちづくり部会のメンバーとしてお手伝い  
からはじまりました。一人で参加なので、写真を  
撮ることが出来ませんでした。配布資料を人数  
分セットし、受付のお手伝いをしました。受付で  
は名刺を台紙に貼り、全国各地の情報をその貼っ  
た方々にメールで送って頂けます。

第一部として福祉まちづくり部会の部会長、中村  
正則氏より全国建築士会の福祉まちづくり活動の  
報告をして頂きました。

バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづく  
り関連では6士会の取組、高齢者等の住まいづく  
り関連では8士会と連合会からは2つの取組でし  
た。昨年はじめて福祉まちづくりセッションに参  
加したときは話を聞くだけで精一杯でしたが、今

年は福祉まちづくりに参加して色々勉強してきたこともあ  
って内容を理解しながら聞くことができました。



(↑ 第1部の様子)

第二部ではバリアフリー観光の事例紹介とパネリ  
ストの方々のディスカッションを聞きました。

パネリストは国土交通省観光庁の方、福島と三重  
の建築士でもあるバリアフリーツアーセンターの  
方々、コーディネーターとしてこちらも建築士で  
もある島根のバリアフリーツアーセンターの方が  
進めてくださいました。

まずは観光庁の方に「バリアフリー旅行相談窓口」  
について説明して頂きました。2020年のオリパラ  
までに全国に設置したかったそうですが、道半ば  
という状況だそうです。「宿泊施設バリアフリー  
促進事業」については年々皆さんの関心があがっ  
てきているため、合わせて全国に広がって行くと  
良いと思いました。

事例紹介で一番印象的だったのは、宿泊施設でい  
かにも障害者用の部屋というわけではなく、一般  
の方が宿泊しても違和感のない改修を行っている  
ところがあることでした。これはやはりバリアフ  
リーに対して精通している建築士が介入してから  
こそ改修だと思いました。

ディスカッションでは「バリアフリー観光地づく  
りを加速する制度的な枠組みは？」をテーマに展  
開して頂きました。

昨年度は600以上の宿泊施設が観光庁の補助金を使  
って改修をしたそうですが、改修前に建築士等

のアドバイスがあるところとないところがあるそうで、改修後誰もが利用しやすい施設にするためには全国的に足並みをそろえる必要があるのでないかと思いました。



(↑ 第二部のディスカッションの様子)

今回、「観光バリアフリー」がテーマだったので、自分のやりたいことや知りたいこととは違うかなと思っていましたが、基本的な考え方は一緒に、大変勉強になりました。

毎年自分の知らない所で色々な活動をなされていると実感し、もっとアンテナを広げておかないといけないと思いました。

## \* 大会式典・大交流会 \*

報告者：桂川 麻里

今年の全国大会参加者は約 2,880 名だそうです。

オープニングセレモニーは江差追分でした。第 25 回大会で優勝した方々だそうです。各地の伝統的なことは実際に目にすることは少ないのでいつも楽しみにしています。

その後は、開会宣言から始まり、表彰式まで行い、その後は来年度の広島大会のアピールがありました。2020 年 11 月 14 日(土)開催だそうです。広島は何回も行っていますが、エクスカッションでは

行ったことのない所もあるようなので、参加出来たらしたいと思いました。



(↑ オープニングセレモニーの様子)



(↑ 来年の広島開催案内の様子)

次は大交流会です。全国大会での大交流会は初めての参加でした。東海北陸ブロックの立札がある席で、岐阜県の方がたくさんいる場所に一緒にさせて頂きました。テーブルにはおもてなし隊の方が 2 名ついてくれて、テーブル以外の飲み物や食べ物を持ってきてくださいました。

食べそこなったラッキーピエロのハンバーガーや朝採れイカの刺身も食べることが出来ました。

盛り上がってきて、舞台上「函館名物いか踊り」が始まり何故かおもてなし隊の方に舞台に引っ張られ、一緒に踊ってきました。恥ずかしいと思いましたが、他県の方もたくさんいたので楽しく踊ってきました。



(↑ 大交流会のテーブル)

何とか確保し夜景をカメラに収めてきた。世界3大夜景（日本人は3大が好き？）日本3大夜景といわれる函館であるが、東西が1キロメートルである陸地に市街地が集中し、道路の街灯、港の倉庫や太平洋セメントの1.6キロもある栈橋の明かり、ちょっと反対を眺めれば、青森の大間の明かりまで見えるほどクリアに見えたのは幸いであった。

ガイドさんからのワンポイントアドバイス。「7合目からの夜景が一番」。確かに明かりが頂上より大きく見えるが、一時停止で車窓からであったのが残念であった。



(↑ 大交流会の様子)



(↑ 山頂の様子)

## \* 函館夜景バスツアー \*

報告：小林 教子

大会式典、交流会と無時終了後、函館の夜景を見学するためバスに乗車した。

夜景見学は多数の参加者がおり、バスは8台準備されていたが、私たち4号車は参加者が1名現れずというハプニングがあり、いちばん最後、とりあえず予定時刻の午後8時に出発をした。

天候は晴れ、絶好の夜景日和で、高さ334mの函館山の山頂は当然大変な人出で、ベストビューポジションを得るためにかなり時間を要したが、



(↑ 函館夜景風景)

# **建築士の日フェスティバル**

日 時: 令和元年10月5日(土)  
 10:00~17:00  
 開催会場: マーサ21 マーサスクエア  
 岐阜市正木中 1-2-1 TEL058-295-2222  
 参 加 者: 8名



(↑ 集合写真)

## 「建築甲子園」(事業研修委員会)

10:00~15:00 一般投票及び建築士による投票  
 14:00~15:00 各チームのプレゼン  
 15:00~16:00 審査、表彰準備  
 16:00~16:30 表彰

## 「建築・福祉のまちづくり無料相談」 (建築相談員部会)

10:00~17:00

## 「福祉体験」(福祉まちづくり部会)

10:00~17:00 福祉体験  
 15:00~15:20 福祉に関する人形劇

## 「手作りドーム空間 (体験イベント)」 (青年委員会)

新聞で作る手作りドーム空間

11:00~  
 13:00~

## 「岐阜県建築士会パネル展示」(事業研修委員会) パネル展示

「ティッシュ配り」(女性委員会)  
 1,000 部配布

## 「建築士の日フェスティバル 2019」

### に参加して

報告者: 森崎 麻充

今回は、建築甲子園岐阜県大会の予選が行われました。

「地域のくらしーこれからの地区センター」をテーマに、3校4チームの参加です。

来場者全員が投票出来るので、パネルや模型を大勢の人が囲みました。

プレゼンは、自信や緊張感等が織り交ざった雰囲気の中、来場者は熱心に耳を傾けて、応援していました。また、結果発表までを見守ることで、会場が一体感に包まれました。

優勝は、岐阜工業校専門学校 ぼくらの湊チームでしたが、全チームが日頃の勉強の成果を発揮した、若さあふれる、素晴らしい作品であったと思います。

当日ご協力いただきました女性委員の皆様には、心より御礼申し上げます。



(↑ 女性委員会は昨年までは風船配りでしたが、今年はティッシュ配りをおこないました。)



(↑会場の様子)



(建築甲子園のプレゼンと表彰式の司会は女性委員がおこないました。)



## 女性委員会30周年記念事業



(↑記念CD)

## 30周年記念事業の記念CD「岐阜県建築士会女

性委員会30周年記念誌 あゆみ」が完成しました。

50部作製

岐阜県建築士会へは

会長1、副会長4、専務理事1、各支部長8、青年委員会1、事務局1の計16部

岐阜県建築士会女性委員26名

東海北陸ブロック会へは

愛知、三重、富山、石川、福井の女性委員会5部

ホームページにはデーターをUPしています。



## 編集後記

45号をお届けします。

令和元年度前期の報告となっています。

今回は銀杏の葉をマークに使用しましたがいかがだったでしょうか

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。

また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会

岐阜市藪田南5丁目14番地12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

Eメールアドレス

info@gifukenchikushikai.or.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します

